

平成23年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
中高一貫教育	中高一貫教育を中心とした中高の連携をさらに深める。	中高一貫教育事務局会議を年間6回以上開催し、中学校時からのデータを参考に、より効率的に学力を向上させる。	美浜三方両中学校と本校の教頭と教員の11名による事務局会議を、年間6回実施した。本校事務局員数を7名にしたことや、全国大会参加、先進校視察、職員研修により、制度の具体的現状への理解度は100%となった。また、昨年度に引き続き、少子化や学力向上および中学校のカリキュラム変更に対応し、制度の変更についても検討した。また、英語数学の中高教員による教科会や連携テストの実施、内定後の中学3年生へのテストや課題配布、中学教員との情報交換による高校での習熟度クラス編成など、より効率的な学力向上について工夫した。制度の特徴を活かした学力向上への指導について、本校教員の67%が「満足している」と回答しているが、事務局員以外の教員へ啓蒙し、満足度を上げていくとともに、制度の部分的改善が望まれる。	両教育長、3校の校長、両町の小学校長代表による研究委員会により、制度に対する長期的なプランや全体像を、3校教職員を始め、対象となる全生徒や保護者に説明する機会を、今後も引き続き設けていく。同時に、教育課程・学力向上部会を定期的に実施し、中学校での新カリキュラム対応に即し、制度を利用した学力向上へのさらなる見直しを検討し効率化を図る。また、事務局会議の内容が、3校の全教職員に伝わるよう、各校での全体研修会を定期的に実施する。事務局員を漸次変更し、制度に関わりの少ない教員を減らしていくよう、校務配置を工夫していく。
		全教員対象研究会議を年間2回以上開催し、中高一貫教育制度への教員の理解度と満足度を高める。	全体像については、美浜三方両中学校と本校の職員による三校総会や本校職員への研修会を実施したこともあり、昨年度を越える88%以上が「十分」あるいは「おおむね」把握している。制度の特徴を活かした学力向上への指導についての満足度も、徐々に高まっている。しかし、中学校への乗り入れ授業や出張授業、両中学1・2年次の本校見学会、3年次のオープンスクールなどへの関わり方に個人差があることや、それらの企画による多忙化も重なり、今後も引き続き、満足度が高まるような対策を工夫していく必要がある。	年度当初の各校での全体研修会を増やし、理解度を高めつつ、より多くの教員が関わりを深め、全体像に即した目標を設定し、達成させ、学力を向上させることで、満足度を高める。今年度実施した見学会などの行事やテスト結果を総括し、3校で改善点を検討する。また3校総会を契機に、中高間の教科会を活性化し、共通理解のもと、問題点を共有し、生徒一人ひとりに対する具体策を検討できる態勢を作る。卒業生を含め、連携出身生徒の追跡調査をし、継続的に成果を検証する。
教育課程 学習指導	わかる授業を 実践し生徒 の学習意欲 を高め、学力 向上を図る。	公開授業や生徒による授業評価を通して授業力向上を図る。	92%の教員が公開授業の実施や参観、研究会に関わることができた。しかし今年度は後期公開授業が新採研の関係で実施されなかったため、昨年度より5%ほど減少した。「生徒による授業評価」については担当する講座の半分あるいはそれ以上の講座で実施した教員の割合は65%で、昨年度より7%増加した。また、授業の理解度については、78%の生徒が「ほとんど」あるいは「おおむね」理解できているとしていて、昨年度より6%増加した。	公開授業への関わりが減少したが、来年度は公開授業を例年通り前期と後期の2回実施して、教員の授業力向上につなげたい。生徒による授業評価の実施時期と方法、内容等を検討し、生徒と教員の双方に有益なものとなるように改善し、積極的な活用を促す。授業の理解度が向上したが、考査等の結果と提出された課題の完成度を検討して、生徒の理解度を詳細に把握するとともに、更に多くの生徒が「わかる授業」を追究するための授業改善と一人ひとりに対応した学習指導を充実させる。
		各学年、各教科と連携し家庭学習を充実させ、課題に真摯に取り組ませる。	87%の教員が、担当教科の家庭学習の方法について「十分に」または「おおむね」指導できているとしていて、昨年度より少し増加した。各教科から出された課題の提出について、「ほとんど」または「おおむね」提出している生徒は90%であった。また保護者の93%が本校の学力向上の取り組みに満足していて、昨年度とほとんど同じ結果が得られた。	教員が生徒に家庭学習に取り組ませる指導と、生徒が実際に課題を提出している状況について、高い数字が出ているが、自主的な学習時間を増加させるため、学年会や担任・教科担任と連携し、生徒の生活実態を詳細に把握するとともに、家庭学習の方法等についてより具体的な指導を継続的に行う。また、部活動と家庭学習の両立を実現するため、部活動顧問と担任及び教科担任との連携を深め共通理解を図る。
生徒指導 部活動指導	文武両道を 推進する。	学校行事や部活動に積極的に取り組ませる。	部活動加入率は各学年とも90%を超え、目標を大きく上回っている。また、その部活動に対し「積極的に」または「おおむね積極的に」活動しているとする生徒が85%（部活動加入者に対する割合では94%）に達している。保護者の部活動に「満足」または「おおむね満足」しているとする数値も85%になることから、部活動に対して、生徒は前向きな姿勢で取り組み、保護者の満足度も高いことがうかがえる。ただ、1年生の保護者においては若干満足度が低かった（79%）。また、学校行事への参加も「積極的」または「おおむね積極的」に参加している生徒が94%と高い数値を残している。文武両道の「武」にあたる特別活動への取り組みに関しては、ほぼ満足のいく結果であった。	ほとんどの生徒が部活動や学校行事に積極的に活動または参加している状況の中で、各学年とも10人前後の生徒がやや否定的な回答をしていることになる。生徒一人ひとりにとって意義のある部活動となっているか、さらに綿密な調査を検討したい。あわせて普通科のスポーツ・芸術推薦で入学してきた生徒の追跡調査を行いたい。部活動や学校行事に対する高い関心を今後も維持するために、それぞれの部における活動方針や活動内容が、「文武両道」をめざすものであることを常に意識できる体制づくりに努めたい。
		容儀に関する指導を中心として、基本的な生活習慣の確立を図る。	定期的な容儀指導を行うとともに、時間管理の習慣作りと挨拶の励行に努めさせる。	生徒が「規則正しく生活している」または「おおむね規則正しく生活している」とする保護者の割合が72%にとどまり、時間管理に対する保護者の満足度がやや低い。同じことがらについての教職員の数値が92%と高いことから、学校での生活には特に大きな問題はないが、家庭での時間管理に改善すべき点があるのではないかと推測される。容儀面に関しては、校則その他を「よく守っている」または「おおむね守っている」とする数値が、保護者（96%）、生徒（95%）、教職員（97%）とも目標を大きく超える結果となった。それぞれの判断の厳格さには個人差が大きいと考えられるものの良好な結果といえる。

進路指導	キャリア教育の推進を図る。 明確な進路目標を持たせ、希望進路を実現させる。	職業人インタビュー、先輩と語る会、職業講話、進路講演、進路説明会等を実施して、職業観の育成と進路目標の明確化を図る。	生徒のうち、「明確な進路目標を持つことができた」または「明確ではないが進路目標を持つことができた」と答えた割合は全体の83%であった。また、保護者のうち、子どもが「明確な進路目標を持っている」または「明確ではないが進路目標を持っている」と答えた割合も全体の83%であった。さらに、担任のうち、「ホームの80%以上の生徒に明確な進路目標を持たせることができた」と答えた割合は93%となり、いずれも全体平均では判定基準を上回った。しかし個別に見ると、担任の中には、進路目標を持たせることができた生徒の割合は「80%未満」と回答した教員もあり、ホームによっては若干異なる結果となった。また、学年別に見ると、1年生の段階では進路目標を持った生徒の割合は67%にとどまっている。	担任や学年会との連絡を密にしなが、進路目標を明確にするための指導を計画的に実施することで、学年や学校全体の取り組みをさらに徹底できるよう努力する。また、高校初期段階での進路指導について、その方法や内容を更に吟味し、できる限り早い段階で生徒一人ひとりの進路目標が明確になるよう指導を工夫していく。
		土曜学習会、夏期課外、冬期課外等を実施し、学力向上を図る。	土曜学習会や夏期課外及び冬期課外について、その内容や回数が「適切」または「おおむね適切」であったと回答した教職員の割合は85%であり判定基準を上回った。また、このような学習会や課外に「積極的」あるいは「おおむね積極的に」参加したと考える生徒や保護者の割合は、どちらも93%を超え、充実した取り組みとなったと考えられる。	回答結果に満足することなく、高い評価の割合が増加するように、実施方法や内容等について更に検討を重ね、生徒の学力向上を図る。
		推薦入試・AO入試、センター試験・2次試験に対する指導をきめ細かく行う。	推薦入試や2次試験等に対する対策として、個人指導を「きめ細かく十分に」あるいは「おおむね」行ったとする教職員は94%に達した。また、進路実現についての本校の取り組みについて、「きめ細かく、十分に」あるいは「おおむねきめ細かく、十分に」行われていると考える保護者の割合も93%となり、全校体制での個別指導について高い評価が得られたと考える。更に進路実現に対して、「積極的に」または「おおむね積極的に」取り組んだ3年生の割合は98%であり、生徒においてもしっかりとした取り組みができたと言える。	回答結果に満足することなく、教員間で個々の生徒についての情報や指導の仕方が共有できるよう工夫を重ね、更に充実した取り組みとなるように努力を継続する。
保健管理 安全管理	生徒の健康管理、健康教育を推進する。 環境美化を推進し、安全管理を徹底する。	保健部LTや保健委員会活動などを充実させ、生徒の健康管理意識を高める。	「心のLT」(クラウンの大棟氏による生き方についての講演)、保健部LT(コミュニケーションの大切さについて)、WYSH教育(性に関する講義とグループワーク)によって「心身の健康について関心が高まった」とする回答が90%、保健委員会のプレゼン(歯の健康)などによって「健康管理への意識が高まった」とする回答も80%と、ともに判定基準を上回った。	来年度も引き続き「心のLT」の講師選考を適切に行い、保健部実施の各行事についてその内容の充実を図る。また、学年会・指導部・体育科との連携を密にし、関連する行事について内容や運営方法を点検して生徒の健康管理への意識向上に努める。
		整美・保健委員会の活動や清掃活動の充実により安全面の向上と環境美化に努める。	整美・保健委員会の活動を通して「校内美化への意識が高まった」とする生徒の回答は86%であった。教職員の「校内美化に積極的に取り組んだ」「おおむね積極的に取り組んだ」とする回答も合わせて100%と判定基準を上回った。また、「毎日の清掃活動に積極的に取り組んだ」「おおむね積極的に取り組んだ」とする生徒の回答も合わせて91%と高く、環境美化については意識や活動ともに定着してきている。一方、安全管理については教職員で「常に意識して点検している」と回答した割合が76%と判定基準を下回った。	清掃活動や校内美化への取り組みについては来年度も回答結果に満足することなく、より向上するようにその充実を図る。また、教職員の担当場所における安全管理については、必要に応じて点検するだけでなく、常に意識して点検できるようにその方法や内容について検討する。
図書整備 情報管理	生徒により多くの書物を読ませ、広い視野と豊かな心を育む。	読書案内をより充実する。(図書情報委員会による図書館だより「ティーンズライブラリー」を年10回発行する。)	図書情報委員会による図書館だより「ティーンズライブラリー」は11月末までに目標の10回発行を達成することができた。新規購入図書の案内など、各委員の個性あふれる図書館だよりであったと思うが、生徒の評価は「毎回読んだ」、「ときどき読んだ」を合わせて61%にとどまった。一昨年度、昨年度とほぼ同水準であった。一方、教職員は、ライブラリー30より提供した資料の活用やLT・STでの読書指導が「十分で」「必要に応じて」が合わせて86%となり、今年度大幅に増加し、判定基準を上回った。	生徒の読書意欲を向上させるためには、教職員のはたらきかけが重要である。特に担任と協力し、LTやSTあるいは授業を通して、読書の必要性や良さを、引き続き呼びかけていきたい。また、「美高100冊の本」やベストセラーなど話題の本のPRに努めたい。さらに、「私はこう考える大賞」、読書感想文コンクール、ディベート大会などの行事に合わせて、特設コーナーを設置し、その充実に努めたい。
		書物に接する機会を増やし、貸し出し冊数の増加を図る。(年間貸出冊数1,500冊)	各学期にライブラリー30を1回以上利用した生徒は90%に達した。また、各学期に1冊以上借りた生徒は82%となり、一昨年度、昨年度に比べ、徐々に増加傾向にある。2月末現在貸し出し冊数は2,000冊を超え、目標の1,500冊を大幅に上回った。さらに、読みたい本が「充実している」、「おおむね充実している」とした生徒の割合は、72%、貸し出しや返却のシステムが「スムーズである」、「おおむねスムーズである」とした生徒の割合は92%、教職員の希望図書要求の満足度は91%となり、いずれも増加し、判定基準を上回った。	生徒の読書意欲を呼び起こすために、生徒への「読みたい本」や教職員への「生徒に読ませたい本」のアンケート調査を適宜行い、新規購入図書の確保に努めたい。また、LTや授業のライブラリー30での実施を呼びかけたり、全校一斉「ブックウィーク」を設定し、「読書のすすめ」を具体的に企画するなど、本にふれる機会を増やしたい。さらに一部運用となっている、CASAによる貸し出しシステムや蔵書管理を引き続き進める。教職員への購入希望図書の調査も適宜行い、定期的に蔵書内容を検討しつつ、その充実に努める。
開かれた学校づくり	PTA活動を充実発展させ、教職員と保護者との連携を深める。	PTA総会等への保護者の参加数を増やす。	PTA関係行事への参加について保護者への呼びかけを100%の担任が「おおむね実施した」と回答している。しかし、保護者の参加率は昨年より上昇したものの72%にとどまり、目標の80%には届かなかった。PTA関係行事の内容については95%の保護者がほぼ満足しており目標を大きく上回っている。	今年度PTA総会においてダイレクトメールを送付したこともあって参加率はやや上昇したが、参加の呼びかけ方、日程、PTA行事の企画内容について再度検討を重ね、保護者が参加しやすいものとなるよう努める。
		広報誌「湖声」を発行し、保護者の学校への関心を高める。	PTA広報誌「湖声」は97%の保護者に読まれている。学校の現状もこれによって97%の保護者がつかんでおり、学校への関心を高めることにも、96%の保護者が「役立った」としている。いずれも昨年度の値を上回り、ほぼ満足できる結果であった。	生徒の活動の様子がより保護者に伝わるように、引き続き紙面の充実に努め、学校への関心を高めていきたい。